

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572809382号
法人名	特定非営利活動法人 エヌピーオー社会福祉事業振興会
事業所名	グループホームすずらん稲川
所在地	湯沢市川連町字大館川原120 (電話) 0183-42-5294
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年1月28日

【情報提供票より】 (平成21年1月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 6 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	8 人 (常勤 8 人 非常勤 常勤換算 8 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての ~ 1,2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	7 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.7 歳	最低 74 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	七山医院、川連歯科
---------	-----------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「柔軟なケアと安心した生活」を事業所の理念として掲げ、それを実現するため管理者の高いリーダーシップのもと、職員全員で日々のサービス向上に取り組んでいる。
職員の勤務は5交代制を取り入れ、チームケア、チームワークを大切に業務にあたっているほか、定期的な事業所内研修の実施や専門書庫室を確保して、職員の自己研鑽と意欲を高めながらケアサービスの向上に取り組んでいる。
また、地域密着型サービスとして地域との関わりを大切にしており、認知症に対する地域の理解を得るとともに、利用者が地域で暮らし続けられるよう事業所の一角に「ふれあいサロン」を設置し、地域住民との交流促進に努めている。
さらには、「生活リズムシート」や介護計画書を効率よく工夫・改善したり、「ミニすずらん便り」「すずらん便り」「月間報告書」による詳細な情報提供など、地域のGHネットワークも活用しながら効果的な手法や取り組みにつなげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	行事の案内を新聞の織り込みに入れるなど、呼びかけ方法を工夫して地域住民との交流促進を図っているほか、事業所内研修の実施などにより認知症ケアの専門職としてケアの向上に努めている。 また、玄関にスロープを設置して環境整備に努めているが、全居室への冷暖房設置など難しい部分もあるため、継続して今後の課題としてほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	すべての職員が評価の目的や意義を理解しており、主任がミーティングなどで職員の意見を集約し、それを基に管理者と話し合いのうえ自己評価をまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者及び事業所の状況報告を基に意見交換し、検討結果を職員間で共有しているが、今後は外部評価結果の報告など課題を検討し、具体的な改善やサービス向上につなげる有効な機会として捉えながら運営推進会議を開催してほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「苦情・要望ノート」を作成し、苦情に発展する前に家族の要望や意見を把握して記録し、ミーティングやカンファレンス等で改善策を検討している。 今後は、家族の潜在的な意向を把握するため、意見箱や家族会を設置しての意見集約、独自の意向調査など工夫した取組を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	新聞の折り込みとして行事案内をするなど住民への呼びかけを工夫し、夏祭りには多くの住民参加が得られているほか、近隣小学校の運動会にも参加して交流を図っている。 なお、事業所内に「ふれあいサロン」を設置して交流スペースを確保しているため、家族や地域住民の連携協力の場となるよう積極的な働きかけを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	すずらんとしての理念及び稲川独自の理念も構成され、掲示もされている。			法人の理念である「創」と事業所独自の理念として「柔軟なケアと安心した生活」を掲げ、利用者及び家族、地域、職員との関係づくりにより、利用者一人ひとりの生活支援をめざしている。	○	地域密着型サービスとして新たに地域との関わりを理念に盛り込むとともに、パンフレット等にわかりやすく明示するなど地域住民等への理解と周知に努めてほしい。
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すずらんとしての理念及び稲川独自の理念も構成され、掲示もされている。					
2	2	○理念の共有と日々の取り組み	理念を文書化し事務所内に貼り出して共有している。個々に理解し実践できているかとなると不十分に思える。	○	管理者よりミーティング時に働きかけがあるので、スタッフ一人一人の意識を続けていくように努力する。	理念を玄関や事務室に掲示し、管理者はミーティングやカンファレンス、申し送りなどで職員と理念を確認、共有している。 また、管理者と職員の間主任がおり、相互の調整役として連携しながら理念に基づいたケアの向上に努めている。		
		運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を文書化し事務所内に貼り出して共有している。個々に理解し実践できているかとなると不十分に思える。	○	管理者よりミーティング時に働きかけがあるので、スタッフ一人一人の意識を続けていくように努力する。			
3	3	○家族や地域への理念の浸透	運営推進会議などを通じて働きかけを行なっているが、まだ不十分であり対象も限られている。	○	ホームから家族への郵便物や、地域への告知文書面（ポスター）へ常に理念をのせてみる。	ホームから家族への郵便物や、地域への告知文書面（		
		事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議などを通じて働きかけを行なっているが、まだ不十分であり対象も限られている。	○	ホームから家族への郵便物や、地域への告知文書面（			
2. 地域との支えあい								
4	4	○隣近所とのつきあい	「ふれあいサロン」を設け開放しているが、日常的に気軽に立ち寄ってもらうまでには至っていない。今年の夏祭りには呼びかけの効果もあり、沢山の地域の方に来訪してもらえた。			前回調査を受け住民への呼びかけを工夫し、夏祭りの案内を地方新聞の折り込みに入れて多くの住民参加が得られている。 また、近隣小学校の運動会に参加して交流に努めているほか、事業所の一角に「ふれあいサロン」を設置して交流スペースを確保しており、運営推進会議や民生委員を通して徐々に地域の理解を得ている。	○	家族の意向もあり日常的な地域住民との交流については希薄であるため、認知症に対する家族及び地域住民の理解と協力を求め、必要に応じて社協等と連携しながら「ふれあいサロン」を有効的に活用するなど、積極的な取り組みが望まれる。
		管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	「ふれあいサロン」を設け開放しているが、日常的に気軽に立ち寄ってもらうまでには至っていない。今年の夏祭りには呼びかけの効果もあり、沢山の地域の方に来訪してもらえた。					
3	5	○地域とのつきあい	地域行事へ参加、交流を図っている。	○	地域行事について事前に調べるなどしてこちらから積極的な交流を図る。	地域行事へ参加、交流を図っている。	○	
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事へ参加、交流を図っている。	○	地域行事について事前に調べるなどしてこちらから積極的な交流を図る。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	湯沢市認知症高齢者等見守りネットワークへの協力。管理者が地域に向けて介護教室を行っている。	○	介護相談・認知症介護者教室・勉強会などを積極的に開催していきたいと考えている。				
		湯沢市認知症高齢者等見守りネットワークへの協力。管理者が地域に向けて介護教室を行っている。	○	介護相談・認知症介護者教室・勉強会などを積極的に開催していきたいと考えている。				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用	評価はスタッフ全員で取り組むようにしている。評価のまとめを提示、閲覧しているが、ただの評価のみで終わっている感がある。	○	評価、実施、見直し、のサイクルができるよう、意識的に取り組むよう、まずはミーティングを通して話をしていく。	自己評価にあたり、ミーティング等で主任が職員の見を集約し、それを基に管理者と話し合っている。 また、前回評価の結果はミーティングやカンファレンス等で検討のうえ改善に努めている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価はスタッフ全員で取り組むようにしている。評価のまとめを提示、閲覧しているが、ただの評価のみで終わっている感がある。	○	評価、実施、見直し、のサイクルができるよう、意識的に取り組むよう、まずはミーティングを通して話をしていく。			
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み	報告し、それに基づいた話し合いを持つようにしている。また、開催議事録をスタッフ全員が目を通している。しかし委員の方の意見が反映されているかとなると、その意見の内容によっては必ずしもそうであるとは限らない。	○	会議開催後、早いうちに各階主任と話し合いの場を持つ。	2か月に1回開催し、事業所の状況報告を基に意見交換しており、職員にはミーティングで報告のうえ共有している。 また、会議後には委員が利用者と関わり、事業所と利用者の理解に努めている。	○	運営推進会議に外部評価結果を報告し、事業所の課題を検討して、サービスの向上につなげてほしい。 また、地域住民に対して認知症に関する講座開催など要望があるため、実現に向けて検討してほしい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告し、それに基づいた話し合いを持つようにしている。また、開催議事録をスタッフ全員が目を通している。しかし委員の方の意見が反映されているかとなると、その意見の内容によっては必ずしもそうであるとは限らない。	○	会議開催後、早いうちに各階主任と話し合いの場を持つ。			
6	9	○市町村との連携	主に管理者が訪問・電話などで必要な連絡を入れるようにしている。			「湯沢市GHネットワーク」を設置しており、地域包括支援センター職員の参加を得るなどして情報交換している。 また、利用者の行政担当者が来訪し、生活状況や情報の連携に努め、運営推進会議の際にも利用者に関わり状況を把握している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に管理者が訪問・電話などで必要な連絡を入れるようにしている。					
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度そのものの理解が十分でない。	○	スタッフ個々が、この制度の意義を理解するためにも内・外研修にて学びの場を確保する。			
		新規入居者が権利擁護事業を活用しているが、スタッフが詳細には理解出来ていない部分も多い。		○	全スタッフが制度について学ぶ機会を持つ。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体のみではなく、言葉や態度による虐待にも注意を払い、スタッフ間でも気づきや注意のしあい で防止に努めている。						
		身体虐待については理解を深め注意出来ている と言えるが、言葉や態度により虐待につながる 場合があるという意識が薄い。	○	日々のケアを振り返りスタッフ間で注意し合っ て防止に努めていく。				
4. 理念を実践するための体制								
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用 者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分 な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解と納得をいただいている。						
		十分な説明をし理解と納得をいただいている。						
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	苦情・要望ノートを作成。対策、実施、結果ま でを文書化。また、運営推進会議にはほぼ毎 回一名程度利用者に参加してもらい外部者 の前で率直な意見を現せる機会を設けてい る。	○	利用者の意見には出来る範囲内で早めの対 応を心掛けている。				
		要望・苦情ノートの作成。運営推進会議に 利用者に参加してもらい意見を表せる機会 を設けている。		利用者の意見に対して出来る範囲で早 めの対応を心掛けている。				
7 14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせ た報告をしている	利用者の暮らしや健康・金銭については月に 一回「月刊報告書」として文書化したもの を、職員の構成については季刊ホーム便 りに掲載し郵送。ほか、気がかりな事 は、面会時や電話などで報告・相談して いる。					「月刊報告書」により利用者の健康状態 や金銭管理等を個別に報告しているほか、 「すずらん便り」や「ミニすずらん便り」 でも利用者の暮らしぶりを家族に伝えて いる。 また、利用者の状態変化時などは、電 話等で速やかに報告・連絡している。	
		利用者の暮らしや健康・金銭については月に 一回「月刊報告書」として文書化したもの を、職員の構成については季刊ホーム便 りに掲載し郵送。ほか、気がかりな事 は、面会時や電話などで報告・相談して いる。						
8 15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	苦情・要望ノートを作成。対策、実施、結果ま でを文書化。また、運営推進会議にはほぼ 毎回一名程度利用者に参加してもらい外 部者の前で率直な意見を現せる機会を設 けている。	○	家族がもっと気軽に意見を言えるよう な環境整備に努める。例えば面会簿に 「意見記入欄」等を設け感じた事を記 入してもらうなど。			○	
		苦情・要望ノートを作成。対策、実施、結果ま でを文書化。また、運営推進会議にはほぼ 毎回一名程度利用者に参加してもらい外 部者の前で率直な意見を現せる機会を設 けている。	○	家族がもっと気軽に意見を言えるよう な環境整備に努める。例えば面会簿に 「意見記入欄」等を設け感じた事を記 入してもらうなど。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人理事長と年度末に面談あり。職員各自が業務中の気づいたこと等主任にあげ、主任が管理者に報告・相談している。						
		法人理事長と年度末に面談あり。職員各自が業務中の気づいたこと等主任にあげ、主任が管理者に報告・相談している。						
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	5交代制をとり、利用者の生活時間に合わせた職員の確保をしている。						
		5交代制をとり、利用者の生活時間に合わせた職員の確保をしている。						
9 18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職前に利用者に対して説明や挨拶を行っている。異動については異動後も訪問しあい交流を継続している。			法人内で異動があれば利用者に説明しており、必要に応じて異動先から職員が訪問し、利用者の不安を解消するため交流するなど配慮している。 また、日ごろから利用者一人ひとりと職員との信頼関係を築き、利用者に不安を与えないよう努めている。			
		異動や離職前に利用者に対して説明や挨拶を行っている。異動については異動後も訪問しあい交流を継続している。						
5. 人材の育成と支援								
10 19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数や能力に合わせ研修参加の機会がある。OJTの開催。	○	ホーム内研修のマニュアル整備。外部で研修してきたことは、ホームに戻ってから学習発表の場を設け他のスタッフも共に学べる形をとっている。	職員の経験等に応じて外部研修を受講しているほか、事業所内研修（OJT）に力を入れ、職員が輪番制でテーマを決めて意欲的に研鑽している。 また、専門書を備えた書庫室を設けるなど、職員の自己研鑽を促している。	○	研修参加に伴い、職員の経験や希望、目標、反省なども踏まえて研修計画をたて、計画的、段階的にスキルアップにつなげるための仕組みづくりが望まれる。	
		勤務年数や能力に合わせ研修参加の機会がある。OJTの開催。	○	ホーム内研修のマニュアル整備。外部で研修してきたことは、ホームに戻ってから学習発表の場を設け他のスタッフも共に学べる形をとっている。				
11 20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湯沢市グループホームネットワークを立ち上げ同業者との交流を図っている。行事等に招待したり、されたりしてお互いの事業所を見学することを通して自分の事業所を客観的に見る機会が増えている。		情報交換で得た情報はスタッフに伝え共有している。	地域の事業所管理者によるGHネットワークを設置しており、意見交換や情報収集し、ミーティング等で伝達・報告のうねサービスの向上に努めている。	○	職員は法人内外の研修に参加して連携を図っているが、今後は職員同士が事業所間を訪問して交流を図るなど、地域全体の質の向上につなげてほしい。	
		湯沢市グループホームネットワークを立ち上げ同業者との交流を図っている。行事等に招待したり、されたりしてお互いの事業所を見学することを通して自分の事業所を客観的に見る機会が増えている。		情報交換で得た情報はスタッフに伝え共有している。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談の実施。						
		面談の実施。						
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の奨励。有資格者・経験者のポスト作り。						
		資格取得の奨励。有資格者・経験者のポスト作り。						
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時の聞き取りで情報を集め、対応できるよう努めている。						
		面接時の聞き取りで情報を集め、対応できるよう努めている。						
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様。						
		上記同様。						
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームとしての出来る範囲内で、出来ることへの支援に努めている。		ネットワークを利用して情報の提供・紹介を行っている。				
		ホームとしての出来る範囲内で、出来ることへの支援に努めている。		ネットワークを利用して情報の提供・紹介を行っている。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居を決める前に家族と一緒に見学に見られる方もいる。また雰囲気を感じる為、日中体験入居をされた方もいる。			○	管理者及び職員が自宅を訪問し、過去の生活状況などの情報を得ながら、利用者と家族のほか必要に応じて担当ケアマネジャーとともに事業所を見学している。 また、日中に事業所で過ごすなど利用体験も行い、利用者と職員の馴染みの関係をつくり、納得のうえ利用につなげている。	利用者の家族には事業所に対して「お世話になっている」という意識の方もいるため、利用にあたり、利用者及び家族の権利や認知症及び事業所の役割・機能を十分説明し、理解を得たうえでサービス提供につなげてほしい。
			入居を決める前に家族と一緒に見学に見られる方もいる。また雰囲気を感じる為、日中体験入居をされた方もいる。					
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と共に作業などを行い、料理・農作業など教えていただくという場面もあるが、支えあう関係作りという点では不十分。スタッフの押しつけの部分が多い。	○	日々のスタッフ間の気づきや改善すべき点を話し合う場を持つようにしていく。	○	職員が採ってきた山菜の調理方法や着物の着付けを学ぶなど、利用者の培ってきた知識や経験を生活に反映させている。 また、車イスの方がモップを持ち、職員が押しながら掃除したり、忘年会やカラオケ、踊りなども共に楽しむなど互いに支え合っている。	
			利用者と一緒に調理をしたり農作業を教えもらったり、利用者の経験に基づくアドバイスをもらう等支え合う関係作りに努力しているが、一方的な支援になる事も多い。	○	利用者との関わりを持つ意義をもっと掘り下げる事が必要。気づきや改善すべき点、学び合う点をスタッフ間で常に話し合っていく。			
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時、家族からの要望を伺うようにしている。忘年会ほか行事参加を呼び掛けているが支えあいの関係作りにはなっていない。	○	現在取り組んでいる事を含め、再確認しながら関係性の充実に繋がるものを探していく。	○		
			努めてはいるが支え合う関係は不十分。	○	家族への積極的な声かけ、働きかけを行う			
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関わりの中で感じたことを含め、その家族に合わせた対応をとるよう心掛けている。	○	同上	○	行事等の際には家族へ呼びかけ、利用者と一緒に過ごしてもらえるよう支援している。	
			関係性の把握には努めている。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	文通や電話等を利用し支援している。また、受診などの外出の際、馴染みの場所や人に立ち寄ってくる時もある。	○	友人などを行事に招待してみる。など	○		
			支援の提供出来る機会が少ない。	○	会いたい人や行きたい場所を訪問出来る機会を設ける。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	31	○利用者同士の関係の支援	生活の様々な場面を利用し、関わりが持てる場を提供するようにはしている。					
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性や相関関係の把握に努め日々のケアに反映させている。行事やレクリエーション、外出、外食等と一緒にいき、良関係を築けるよう努力している。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み	必要な方との連絡は継続している。					
		サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の次の入所先を訪問したり連絡をとっている。		ネットワークを介して良好な関係や付き合いを継続している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握	ケアプラン作成時、本人との話し合い・家族の意見の取り入れを行い意向把握に努めている。	○	利用者からの「声」をプランにも反映させたく、日々の記録に落せるようなシートを活用している。			利用者及び家族からの情報を基に、様々な生活の場面で利用者の仕草や言動から思いを感じ取り、状況に応じた声かけや言葉かけにより支援につなげている。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や家族の意見を取り入れ、なるべく実現できるように努めている。		利用者の言葉・行動等、日々の気付きを基にケアプランに反映させ定期的に確認、見直ししている。			
	34	○これまでの暮らしの把握	特に入居前の面接や家族・関係者からの聞き取りは丁寧に行うようにはしている。	○	入居後も本人の言葉や、家族面会時に聞きとるなどして更なる把握に努めケアに活かしていきたい。			
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活歴を聴き取り調査したものをファイルし、スタッフが情報を把握している。	○	本人の話や家族来訪時に聞き取りを行い更なる収集に努める。			
	35	○暮らしの現状の把握	生活リズムシートの活用。行動や睡眠・排泄のパターンなどを記録しこれらを基に把握するよう努めている。					
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムシートの記録にて情報を共有し、変化の推移についてもモニタリングで意見交換を行っている。		表情や発言等も細かく記入している。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月一回モニタリングを開催し、利用者の各担当を中心に経過を話し合い、介護計画に反映させている。		担当はその利用者の気づいた点などをメモ書きで計画書に残すなどし、モニタリングでの評価に繋げている。	計画作成担当者が利用者及び家族の意向を踏まえてアセスメントし、全体会議で管理者及び職員と意見交換しながら介護計画を作成している。 また、月1回のモニタリングを実施し、必要に応じて計画に反映させている。		
		一ヵ月に一度モニタリングを行い、話し合いによって計画を作っていく。	○	利用者本人の意見の取り込みがもっと必要。				
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その通りに実施している。			3か月に1回、利用者及び家族の意見を確認しながら計画を見直しているほか、職員の気づきや利用者の心身状況の変化に応じても家族と話し合いのうえ見直している。 また、モニタリングしやすいよう介護計画の様式を独自に工夫している。		
		モニタリングの度に計画の見直しを行い、定期的に計画変更を行っている。必要時にケアカンファレンスを開催し、緊急に計画変更も行っている。		変更時は本人や家族と話し合っている。				
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を基に、ホーム独自の記録用紙を作成。					
		センター方式の用紙を活用。	○	利用者の言動にもっと気を配る。				
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性がない為、評価できない。			地域の馴染みのスーパーや理美容院、通院など利用者及び家族の要望を優先しながら外出支援している。 また、行事の際には系列事業所の職員が応援に駆けつけるなど互いに連携している。		
		多機能性がない為、評価できない。						
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して意見交換を行い、諸機関との連携が徐々に密になってきている。	○	地域資源と協働していくためには、認知症の正しい理解を広く地域の人に知ってもらう必要があると考える。サポーター養成講座の開催などを通して広めていきたい。			
		運営推進会議を通して意見交換を行い、諸機関との連携が徐々に密になってきている。	○	地域資源と協働していくためには、認知症の正しい理解を広く地域の人に知ってもらう必要があると考える。サポーター養成講座の開催などを通して広めていきたい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月一度の地域ケア会議に出席し、意見交換を行い他のサービス利用につながるよう努めている。		管理者が出席できない場合は、他のスタッフが出るなどして関係が途切れないようにしている。				
		月一度の地域ケア会議に出席し、意見交換を行い他のサービス利用につながるよう努めている。		管理者が出席できない場合は、他のスタッフが出るなどして関係が途切れないようにしている。				
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	主に管理者が訪問・電話などで必要な連絡を入れるようにしている。						
		主に管理者が訪問・電話などで必要な連絡を入れるようにしている。						
18 43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の体調を相談し指示をいただいている。			利用契約時にかかりつけ医や指定医などについて説明・確認しており、定期通院や行政の健康診断により健康管理に努めている。 また、薬の管理は調剤薬局と連携をとり、薬の副作用や特徴など指導を受けながら支援している。			
		利用者の体調を相談し、都度指示を頂いている。		希望もしくは了解をとり受診先を決めている。一部は家族が対応。				
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医も少なく、判断しづらい。	○					
		専門医も少なく、判断しづらい。	○					
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	受診時の相談のみで終わっている。	○					
		受診時の相談のみで終わっている。	○					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主に管理者が中心となり病院との情報交換に努めており、直接あるいは家族を通して連携を図っている。						
		主に管理者が中心となり病院との情報交換に努めており、直接あるいは家族を通して連携を図っている。						
19 47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方向性の共有とまでは至っていないが、個々に必要性を感じた場合は家族と話し合っている。		ホームとしてできる限度を伝え、早い時期から次の受け入れ先施設の申し込みの手続きや情報を提供している。	○	利用者及び家族には利用契約時に事業所の方針等を説明しており、利用者が重度化した場合における他受け入れ施設との連携・協力を検討している。	終末期における看取りの体制について管理者が必要性を感じていることから、利用者の重度化や終末期のあり方について、協力医療機関と共有・確認することが望まれる。	
		方向性の共有とまでは至っていないが、個々に必要性を感じた場合は家族と話し合っている。		ホームとしてできる限度を伝え、早い時期から次の受け入れ先施設の申し込みの手続きや情報を提供している。				
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実施なし。また準備もできていない。						
		実施なし。また準備もできていない。						
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージがある事を想定して関わり対応している。入居前に家族にも説明している。						
		リロケーションダメージがある事を想定して関わり対応している。入居前に家族にも説明している。						
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20 50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	関係が築けていない頃から、馴れ馴れしい言葉かけや対応をしてしまっている。	○	権利擁護、身体拘束、虐待など、利用者の権利を守る制度を知る勉強会の開催。	○	利用者一人ひとりの状況に応じ、「お願いしていいですか」「どうもありがとう」と、利用者を尊重し、感謝する声かけを心がけている。また、個人情報に関する書類は事務室の書庫にて保管・管理している。		利用者の尊厳と権利を守るための職員のスキルアップを望んでいることから、内部研修等で権利擁護や言動の抑制、虐待などに関する制度や目的を理解し、知識と技術の向上につなげてほしい。
		声かけや対応にスタッフの意識のばらつきがある。スタッフが感情的になり、声かけや対応に表してしまう事がある。	○	利用者に対する慣れ（狎れ）から来ているものもあり、スタッフ間で注意し合い、勉強会を繰り返し行う。記録物については置き場所の再考が必要。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	押し付けによる対応や認知症を理解していないかのような声かけや行動が見られる。	○	認知症に対する基本的な理解や人としての尊厳に対する理解を繰り返し伝え、深めていくしかない。				
		本人に意思決定を委ね、強制をしないようにしている。	○	利用者に対して、選択出来る場面の提供を努める。				
21 52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	押し付けによる対応が目立つ。	○	誰が主体なのかをもう一度考える。スタッフ間で協力し、ゆとりを持って支援していきたい。	利用者一人ひとりの生活リズムを尊重し、食事や入浴などできる限り利用者のペースに合わせて見守りながら支援している。 また、利用者の言動や身なりなども一人ひとりに合わせ、笑顔や笑い声のある落ち着いた生活を支援している。			
		なるべく本人のペースで生活してもらえよう支援しているが、難しい部分もある。	○	日常の中で、スタッフの都合に合わせてしまいがちな部分も見られるので、誰が主体の生活なのかを再度考え直し、業務の中での緊急性を見極めたうえでの優先順でスタッフは動くようにする。				
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	マナー化が見られ、その人らしさが失われている。利美容室利用は本人、もしくは家族が希望された時期、店にて行っている。	○	出かけることが困難な場合は出張床屋を利用。家族の協力を得て衣類交換や好きな物を購入できる機会を持つ。				
		理容店については本人の希望する所へ行っている人とそうでない人がいる。衣類にマナー化が見られ、その人らしさが分からなくなっている。	○	家族の協力のもと、衣類の入れ替えや好きな物を購入出来る機会を増やす。				
22 54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持っている力に応じ、作業を分担してもらいながら行っている。		外出支援。器や場所を変えることにより気分転換を図っている。	利用者の健康状態や状況に応じて軟らかく煮たり、刻むなど調理方法を工夫しており、盛り付けも工夫している。 また、利用者の食べたいもの確認してから買い物に出かけ、器や箸は各自のものを用意している。			
		メニューの考案、準備、片付けに参加してくれる利用者がほぼ決まってしまう。		場所や器を変えたり、弁当や外注食を取ったり、外食に出掛けたりして気分転換を図っている。				
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事の様子や本人との会話から嗜好を把握し好むものを個別に提供。（現病もあり控えていただく場合あり）飲酒により他利用者に迷惑をかけてしまう場合もあり、行事の時に限られてしまっている方もいる。	○	嗜好一覧表の作成。				
		個人の好みで購入している物もあるが、病的なこともあり「全員が日常的に」は応じられていない。		行事等ではお酒の提供もある。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	出来るだけトイレを使用して排泄できるよう支援している。 生活リズムシートを活用し、パターンを把握した排泄の支援を行っている。		生活リズムシートによって排泄パターンの把握。必要時誘導を行っており、スタッフが立ち合う際はひざ掛けを使用するなどし、最低限ではあるが尊厳の保持に配慮している。 身体の状況や昼夜に分けておむつやリハビリパンツを使い分けている。膝かけを使用したり失禁の交換時に素早い対処をする等、羞恥心に配慮している。			
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員の希望通りとはいかずも、個々に合わせた入浴支援を行なっている。 利用者の希望を取り入れ、出来るだけ入りたい時に入浴してもらっている。入浴前にバイタルチェックを行い安全に配慮している。		夜間入浴の希望もあり、毎日とはいかなくても取り組んでいる。入浴前のバイタルチェックの徹底。 夜間入浴に取り組んでいる。入浴出来ない時には、清拭・足浴等で気分転換を行う。			
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心掛けてはいるが、本人の安心感につながっているかはわからない。 居室以外にゆったりと休める場所を確保している。					
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野（料理・農作業など）を活かして手伝ってもらっている。 利用者の経験してきた事や、特技・趣味の聞き取りが不十分。			洗濯やおしぼりたたみ、茶碗ふきや畑づくりなどの役割のほか、書道や俳句、盆栽など利用者の特技や趣味を生かした活動に取り組み、日々の喜びにつなげている。 また、週に1度食前に晩酌する方など、利用者の楽しみを生活の中で支援している。	○	事業所内にサロンがあるため、その一角を活用した活動や地域住民との交流など、利用者の楽しみや気分転換になる取り組みを工夫してほしい。
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	（管理できる方のみ）支援している。 一部利用者は個人でお金を保管、買い物時に支払いもしている。	○	家族の了解のもと、個別の買い物等で自らお金をやり取りする事を支援していきたい。			
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事前に希望を伺い、予定を立てる形での実施となっている。 「その日の希望に添って」は完全には実施出来ない。	○	前もって希望を聞き予定を立てる現在の形を継続し、いずれは日々の希望に応えられる状況の完全化を目指したい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会を作らなければいけない事は理解しているが、実際には近くで行なわれているイベントに参加したり、ドライブ程度。家族と共に・・・の機会は殆どない。 行事がある際には積極的に出掛けるようにしている。スタッフや家族からの提案の外出がほとんどの為、利用者の希望を聞く事があまりない。	○ ○	想いを聴き、それが実現可能かどうか、実現させるにはどうしたらいいか、と順序だてて担当スタッフが考えていく。 想いを聞くことから始めたい。時間が限られてしまっている事が多く、もっと自由な時間設定をしたい。			
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者に限ってだが、日常的に行なえている。 出来る利用者には自由に行ってもらっている。	○ ○	家族の協力を得て、電話などのやり取りが出来るようにしたい。本人は望んでいるが、家族が拒んでいるケースが多いため。 家族の協力が得られれば、直接声の便りを届ける機会を持ってもらいたい。			
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族面会の他、年に数回の訪問もある。面会の際は居室など、ゆっくりとした時間を過ごしていただけるようにしている。 訪問の際にはゆっくり過ごせるよう配慮している。	○ ○	 手紙や電話で働きかける。			
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての十分な知識はないが、身体拘束をしないケアが当たり前である、という認識はスタッフ全員が持っている。 全てのスタッフが「具体的な行為」は理解出来ない。「ちょっと待って」等の言葉が拘束につながっている。	○ ○	十分な知識の習得。No50と同じ勉強会の開催。 勉強会の開催。利用者の自由な行動を規制することなく見守りをしっかり行い、精神的な拘束とは何かを考えたケアを行う。			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	夜間のみ施錠。日中は常時開放し自由にホーム内外出入りできるようにしている。 居室には鍵なし。夜間や危険防止の為やむを得ない場合は階段口の施錠を行い記録に残している。	 ○	 ○	日中は居室や玄関に施錠せず、2階の階段入口には危険防止のため、やむ得ない場合のみ施錠のうえ記録している。 また、利用者への見守りや付き添いのほか、各階廊下にモニターを設置して利用者の安全・安心の生活支援に努めている。		側に川もあるため、運営推進会議で検討しながら近隣住民や関係機関の理解と協力を得て、地域全体で利用者を見守り、支える体制づくりに向けて働きかけてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフが同じ場所に集中しないよう心掛けている。スタッフ同士で声かけをしい、場所を離れるようにしている。						
		利用者と一緒に過ごす事で様子確認を行っている。モニターを利用したり、さりげなく居室を訪室したりして所在・状況を確認している。		1階のスタッフとも連携をとり、ホーム全体及び外へ散歩に出た時等の動向を把握するようにしている。				
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組みはしているが、安全面を考慮するあまりに利用者に相談なく物品を撤去してしまう事がある。	○	共有物については置き場所の工夫や、その物が利用者の目にはどう映っているかを考えて管理する。ハサミ・針などは使用時の見守りと使用後の回収を徹底している。				
		個人の物は利用者の状況に応じて、本人保管からスタッフ預かりまで段階を設けている。共有物については置き場所の工夫や目にどう映るか、触れるかを考えて管理している。		保管場所に毎回確実に戻す事を心掛け、ハサミ等使用時の見守りや針の使用前後の本数確認と回収の徹底をしている。				
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ひやりはっと」「おきてしまったノート」への記入より注意を促し対策を講じているが、転倒、窒息等の事故がなぜ起こるのか？の根本的な知識がしっかりしていない。	○	ケアマネジメントがリスクマネジメントにつながる事をOJTを通し理解してもらおう。個々に対応したリスク管理表の作成。薬の空の回収と服薬個数の確認。				
		「ひやりはっと」や「起きてしまった」ノートを使用し、スタッフの危機意識を高めているが、利用が不十分。	○	実技を含む勉強会の開催。利用者個別に対応したマニュアルの作成。				
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	定期的には行っておらず不十分である。	○	訓練の継続実施。				
		定期的には行っておらず不十分である。	○	訓練の継続実施。				
27 71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は定期的に行っている。しかし災害時のルート確保や周囲への協力要請の働きかけが不十分である。	○	自主訓練の開催。月に一回の訓練日を設け、様々な場面を想定し行っていく。具体的なマニュアル作成。	6か月毎に消防署による災害訓練を行い、各階に消火器を3本設置して緊急時に備えている。また、月1回は救急救命法や声かけ誘導などの自主訓練を実施して自信につなげている。	○	地震や夜間を想定した実践的な訓練のほか、地域住民を交えての訓練実施などにより、避難場所の確認や地域住民の連携・協力体制の整備など利用者の安全確保に努めてほしい。	
		火災訓練は定期的に行っている。しかし災害時のルート確保や周囲への協力要請の働きかけが不十分である。	○	自主訓練の開催。月に一回の訓練日を設け、様々な場面を想定し行っていく。具体的なマニュアル作成。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	今あるもののほか、この先起こり得るであろうリスクについても順序よく説明していくようにはしている。 家族と連絡を取り話し合いをしているが、遠方の家族もおり十分に話し合えないこともある。					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理日誌への記入および申し送りにより確認。バイタル測定の実施。 生活リズムシートや連絡ノート・管理日誌の記録をスタッフが業務に入る前に確認し、情報の伝達漏れがないようにしている。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人によって理解度が違い、そこに向かう姿勢も違っており意識統一を図る必要がある。 薬の一覧表を掲示し服薬準の際や服薬後の確認を行っている。が、副作用について理解していない部分が多い。	○ ○	服薬一覧表を一人のスタッフが作成するのではなく、スタッフ個々が担当利用者の服薬内容（目的・副作用）を調べて作成していく事で理解を深めたい。 主作用・服作用をスタッフ全体が把握出来るような表の作成や勉強会の開催。			
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	寒天や牛乳など食べ物や軽運動（掃除・散歩・体操）により自然排便を促すよう努めている。 繊維食品の取り入れを心掛け摂取水分量の把握と調整を行っている。利用者毎の日数のサイクルで、処方された下剤を投薬している。	○	利用者の運動不足について個別の運動メニューの提案を行う。			
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施。夜間は義歯を洗浄剤に漬け置きし清潔を保っている。 スタッフの誘導や付添で毎食後口腔ケアを行っており、義歯使用の方には入歯洗浄剤も併用し清潔を保っている。	○	定期的に歯科を受診または往診を依頼し、義歯の調整や治療を行い美味しく楽しい食事につなげたい。			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の疾病や体重の増減に合わせて食事量や水分量を調整した支援を行っている。 摂取量の記録と計算で推移を確認している。体重変化、浮腫等を細かく管理・確認し、食事水分提供時に調整している。		主治医よりの指示による水分制限は厳守している。		○	食事や水分摂取量を把握し、生活リズムシートなどに記録している。 また、利用者の疾病状況に応じてかかりつけ医への受診時に指導を受け、調理方法の工夫など支援している。 献立の内容や利用者の栄養バランスについて、栄養士などの専門的な視点から定期的に点検・指導を受け、利用者の健康管理に努めることが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者、スタッフの予防接種。感染症に対するマニュアルがあり一日3回ハイター消毒もしている。						
		利用者、スタッフの予防接種。感染症に対するマニュアルがあり一日3回ハイター消毒もしている。						
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒やタオル類のこまめな交換を行っている。						
		調理器具は毎食後熱湯消毒、夕食後に除菌消毒を行っている。食材は賞味期限を守り、買い置いた物を新鮮なうちに使い切るようにしている。						
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手すり・ベンチ・スロープを設置し安全を確保している。草花を植えたりして親しみやすく家庭的な雰囲気心掛けている。						
		手すり・ベンチ・スロープを設置し安全を確保している。草花を植えたりして親しみやすく家庭的な雰囲気心掛けている。						
29 81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中での音は大切にしている。スタッフの私語が気になる場面がある。	○	利用者の視点で見るという意識を再認してもらう。利用者疑似体験などOJTを利用しスタッフが体感してみることも必要と考える。	玄関にスロープを設置し、広い廊下の両側に手すりを取り付け、椅子やソファを多く置いて好きな場所で過ごせるよう配慮している。 また、利用者の目線に合わせて行事の写真や押し絵などを掲示し、落ち着いた居心地の良い雰囲気づくりを工夫しているほか、居間には対面式調理台を置き、加湿器などで健康面にも配慮している。			
		自然光の取り入れや空気調整、消臭芳香剤の使用。季節の花を生けたりしている。	○	利用者の目線、感覚での再確認が必要。高齢者の視覚や聴覚での感じ方や装飾品に対しての快・不快の検討。				
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の所々にソファやいすなどいつでも腰をおろせるような場所を設けている。						
		ホール内の所々に椅子やソファを設置している。	○	くつろいで一人を過ごせたり、ゆっくりと出来る配慮や工夫をもっと行う。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮	過ごしやすいように配慮。自宅より使っていた家具を持ち込んでもらう事も多い。			居室はストーブのみ備え付けで、利用者の馴染みの寝具やベッド、棚やテレビなどを持ち込み、それぞれに配置を変えて居心地よく過ごしている。 また、居室の入口をのれんやカーテンで装飾し、自分の部屋がわかるよう工夫している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が過ごしやすいように配置等に工夫している	○	家族への協力を依頼し、持ってきてもらえるものを増やしたい。			
30	84	○換気・空調の配慮	一日一回は窓を開け換気するようにしている。			換気を心掛けている。温度・湿度の確認をこまめに行い、室温調整や加湿・除湿器を使用するようにしている。		
		気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を心掛けている。温度・湿度の確認をこまめに行い、室温調整や加湿・除湿器を使用するようにしている。					
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
30	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり	段差・障害物に気を配り利用者によっては動作時の確認項目として日々の記録に挙げている。身体レベルの変化によって風呂場やトイレへ手すりの増設を行った。		利用者の身体の状態に合わせ、声かけを行ったり、一緒に歩くなどしている。	利用者の身体の状態に合わせ、声かけを行ったり、一緒に歩くなどしている。		
		建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差・障害物に気を配り利用者によっては動作時の確認項目として日々の記録に挙げている。身体レベルの変化によって風呂場やトイレへ手すりの増設を行った。		利用者の身体の状態に合わせ、声かけを行ったり、一緒に歩くなどしている。			
30	86	○わかる力を活かした環境づくり	標識や目印をつけたり、逆に目隠しをするなどして混乱を招かないようにしている。		ひらがなでの表示。さりげなく声かけや誘導を行っている。	ひらがなでの表示。さりげなく声かけや誘導を行っている。		
		一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	標識や目印をつけたり、逆に目隠しをするなどして混乱を招かないようにしている。		ひらがなでの表示。さりげなく声かけや誘導を行っている。			
30	87	○建物の外周りや空間の活用	花を植えたり、畑を作ったり利用者と一緒に整備している。			花を植えたり、畑を作ったり利用者と一緒に整備している。		
		建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり、畑を作ったり利用者と一緒に整備している。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと) ①：1ユニット（1階） ②：2ユニット（2階）	
V. サービスの成果に関する項目		①	②
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)
